

# 第14回Radixの会 役員会報告

Radixの会事務局長 竹内 周

10月9日、らでいっしゅぼーや首都圏センターにて今年度3回目、第14回の役員会が開催されました。年度も折り返し地点を過ぎ、目前に迫る年末準備の準備で各役員とも多忙な中、生産者役員9名、らでいっしゅぼーや役員5名での開催となりました。

## Radix

Radix

### ■新しい顧問に 親跡博史氏

冒頭緒方相談役より、9月付けでらでいっしゅぼーや（株）取締役役に就任された親跡博史氏（同商品本部長）が紹介され、会の顧問就任が提案され、着任することとなりました。

らでいっしゅぼーやは9月より3本部（営業本部・商品本部・管理本部）体制となり、私たち「作る人」とり要となる存在。親跡氏は商品部長、品質保証室長も兼務されます。

「商品本部長として、らでいっしゅの会員の皆さまから満足していただくことが商品開発の基本。安心安全はあえて当たり前と捉え、おいしいこと（技術集會など進めていること）をプラスしていかにすすめていくかが肝要です。これからは様々にご指導をお願いしたい。率直な気持ちをお互いに話し合い、切磋琢磨して会の活動を進めていただきたい」。

現顧問の古原氏はらでいっしゅぼーや（株）取締役として営業本部長、管理本部長を兼務、これにより会は2名の顧問をお迎えすることとなります。どうぞよろしくお祈りします。



新たにRadixの会顧問に就任された親跡博史氏（らでいっしゅぼーや（株）取締役）

### ■今期折り返し。 進捗やいかに？

2月の第1回総会で固まった新役員体制（農産6名、畜産3名、食品5名、

非食品1名）のもとスタートした今期。会の活動のいちばんの柱、昨年から本格化した「技術向上」をテーマとした勉強会も、農産・畜産・食品の各部会で様々に進められています。そして各専門分野共通のテーマとしての「相互交流」を具体的な形にするべく新設された交流部会の取り組みも開始されました。

### ●勉強会と自主基準 ……農産部会

昨年合計5回、400名強の参加を果たした「小祝塾」を、今年は全国各地域での分散型自主勉強会に拡大するのが農産部会での勉強会の柱。地域ブロックごとの主体性を重視したこの勉強会は、折り返し地点で20回を開催、のべ353名の参加で進んでいます。小祝政明氏の指導による「新栽培技術体系」の成果が各地で現れ始め、「現代農業」10月号で紹介されたように、ひとつのムーブメントとしての高まりを見せています。

また、6月から8月にかけて連続開催された地域ブロック集會では、「生産者自主基準集」の見直し提案され、全体で取り組んでいくことが決定しましたが、8月に事務局が実施したアンケートによると、回答のあった会員（104件）中70団体が年内に完成の予定となっており、年明けの自主基準集刊行に大きな弾みとなっています。

全国組織としてのらでいっしゅぼーやが備える統一的で公平な全体基準のもと、生産各地の地域性や主体性を備えた多様な生産者自主基準。これらが相補って届けられるメッセージが、消費者により確かな「信頼」の橋頭堡として伝わっていくことの意義は大であると思われま。

### ●畜種別集會と自給率向上試験 ……畜産部会

春に連続開催された畜種別集會では特にらでいっしゅぼーやの生産基準と各生産方式の内容の吟味が進められました。これは昨年とりまとめた、畜産初の「生産者自主基準集」を礎としたものです。2年後とも言われるオーガニック畜産基準の法制化を見据えての討議、さらには消費者により受け入れられる商品開発や、栄養価についての比較検討案が話し合われました。これらの蓄積をもとに肉質・栄養分析の比較試験案が、その方法・内容を含め引き続き検討されています。

また自給率向上試験については畜産役員の中村孝治氏（共栄ファーム）の提案による飼料米の栽培給与試験案（肉鶏）が提案され、下期より段階的に進められる予定となっています。

10月末に実施された「欧州オーガニック畜産視察旅行」は、特別会員幹事の川崎氏（らでいっしゅぼーや商品部次長）を団長、生産者役員の高橋氏（副会長・えりもビーフ）、中村氏、岸氏（幹事・ファーマーズジャパン）の3名を副団長として計10名の主要畜産生産者が参加。主にデンマーク、ドイツを訪問してきました。

### ●技術講習会、 新設のカテゴリー別集會 ……食品部会

昨年4回開催された衛生管理技術講習会が、次なるステップとして「製造管理技術」に着目。次年度までの地域別集會として計6回の開催を決定。9月末にその第1回が大阪で開催されました。年度内にあと2回の開催を予定しています。

一方新設のカテゴリー別集會は5月